

資料室だより 140

現代作曲家作品紹介

Klaus Huber(1924~)

Cantiones de circulo gyrante(1985) Ricordi

資料室に所蔵されている現代宗教作品です。Huber氏は1924年、ベルン生まれのスイス人作曲家。現代ヨーロッパにおいて最も重要な作曲家の一人です。他の音楽図書館には所蔵されていない彼の大規模宗教作品を所蔵していることは資料室にとっても誇りです。

グレゴリオの家創立10周年のときに彼をお迎えし、感謝のミサを捧げ、また彼の作品を聖堂で演奏し、「現代の宗教音楽の可能性」というシンポジウムを行いました。その時にいただいたのが上記の楽譜です。自筆楽譜によるスコアで独唱、合唱、14の器楽からなります。テキストはラテン語のレクイエムより、またヒルデガルトのヴィジョンを交互に用いています。またHeinrich Böll(1917-1985)のテキストが朗読で入ります。Böll氏はドイツの作家でノーベル文学賞を1972年に受賞されていますが、この作品の作曲年に亡くなっており、楽譜はHeinrich Böllの思い出に、という題辞にあることから彼に献呈されているようです。おそらくHuber氏と親しい関係にあったのでしょう。

Senfkorn(1975) Ricordi

この作品はその折にグレゴリオで演奏されたものです。オーボエ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、チェンバロ、少年の声という編成です。テキストはErnesto Cardenalにより、詩編37、およびイザヤ書11:6-7からとられています

グレゴリオの家はグレゴリオ聖歌の伝統に遡及して真理を求めていくだけではなくこのような現代的問題意識に立ってきました。現代に生きる私達の信仰生活と世界の状況と切り離すことはできないからです。このように視野を広く持ち、国際的な作曲家を招聘していたことを覚え、過去の行事の記憶にとどまらず今後も活かしていくべく資料室で楽譜を保管しています。利用をお待ちしています。

(杉本ゆり 記)